

日本神経学会 2026年度「神経疾患に対するイノベーション実用化推進事業」概要  
Promotion project of innovative implementation for neurological diseases

日本神経学会 将来構想委員会

【事業趣旨】

2024年度までの「産・学・官連携による若手創薬研修会事業」と「研究シーズの企業導出サポート事業」を統合し、日本神経学会の会員以外に産や官からも参加者を募って教育プログラムとして「日本神経学会 産官学イノベーションスクール」を開催するとともに、日本神経学会の会員が保有する研究シーズ（学術研究の成果）の企業導出をサポートすることにより、神経疾患に対する日本のアカデミア発のイノベーション実用化を推進する。

【事業経費】

研究シーズ企業導出助成金として、採択者1名あたり1,000,000円（研究費）を支給

【事業スケジュール】

1. 応募（2026年7月31日〆切）

- 資格：日本神経学会会員
- 方法：

特許出願済みの研究シーズ（学術研究の成果）を有し、本事業への応募を希望する学会会員は、所定の応募様式に、必要事項（研究シーズ（学術研究の成果）の名称、特許内容の概要、特許内容の公開可否、出願人（施設）、出願年月日、企業との共同研究の見込み）を記入の上、日本神経学会事務局にメールで提出する。なお、2026年5月に開催された第67回日本神経学会学術大会の一般演題の登録に際し、登録システム上で本事業への応募を希望した学会会員に対しては、日本神経学会事務局から別途メールで応募の案内を行う。

2. 選考（2026年8～9月頃）

日本神経学会将来構想委員会の本事業担当メンバーにて、利益相反のある案件（所属機関が同一の案件を含む）を除いて投票を行い、投票数の多い案件を採択する（若干名）。なお、特許内容の公開可能な応募案件を優先して採択する。

3. 交付申請（2026年10～11月頃）

採択者は、研究シーズ名、研究目的、研究実施計画、企業導出に向けた計画、本助成金の使途等を記載した交付申請書を作成し、日本神経学会に提出する。

4. 研究実施（2026年11月頃～）

採択者は、交付された研究シーズ企業導出助成金を使用して、企業導出に向けた研究を実施する（研究費は採択の翌年度まで使用可能）。

5. 「日本神経学会 産官学イノベーションスクール」の開催（2026年11月～2027年1月頃）

イノベーション実用化の実例紹介、教育講演、トピックス講演、パネルディスカッション等に加え、本事業の採択者にはシーズ育成プレゼンテーションを行っていただき、学術発表の観点ではなくシーズ提案の趣旨で優れた発表になるよう、公開でのコーチングを受ける。ハイブリッド開催の場合、採択者は原則として現地参加とする。

6. 報告（2028年末頃）

採択者は、本事業の終了後、研究シーズ名、研究成果、特許出願や企業導出の進捗状況、本助成金の収支決算の各項目を記載した事業報告書を作成し、定める期日（採択の翌々年度）までに日本神経学会に提出する。

【期待される事業効果】

日本神経学会会員の研究シーズに対して、日本神経学会認定シーズのお墨付き効果を付与し、研究費のサポート及び発表のコーチング機会を提供することにより、採択者が研究シーズの企業導出活動を推進するインセンティブを向上させる。日本神経学会が、研究シーズのイノベーションを担う有力な団体として発展し、学術のみならず日本の産業振興にも貢献することが期待される。